

男子400 福永(洛南)圧倒

男子ハンマー投げ 木村(洛陽工)がV

陸上・H近畿予選

陸上のインターハイ近畿地区予選第1日は16日、長居陸上競技場ほかで男女計5種目の決勝などを行った。男子400

は福永拓哉(洛南)が47秒60で制し、男子ハンマー投げは木村太一(洛陽工)が60秒75で優勝。京滋勢ではこのほか、女子やり投げの脇畑優子(草津東)、男子走り幅跳びの北岡大樹(西城陽)がそれぞれ3位に入った。

記録は1位と6位までの関係分

【男子】▽400 ①福永拓哉(京都・洛南) 47秒60 ②辻(京都・洛星)▽走り幅

跳び ①成定駿介(大阪・三島) 7秒28 ③北岡(京都・西城陽) ⑥山川(京都・洛南) 田(京都・花園) ⑥木村太一 ①ハンマー投げ ①木村太一 ①京都・洛陽工 60秒75 ⑤徳賀・草津東



男子400m決勝。2位に大差をつけて優勝した洛南の福永拓哉。左端は2位に入った洛星の辻。長居陸上競技場 撮影・梶田茂樹

【女子】▽400 ①西田文香(兵庫・北摂三田) 55秒40 ⑤安達(京都・京都橋) ⑥大西(京都・洛北)▽やり投げ ①滝川寛子(大阪・東大阪大敬愛) 49秒29 ③脇畑

充実の自己新V

○男子ハンマー投げ

積極性磨き独り舞台 福永

「正直、自分との闘いでした」。

その言葉が大げさに響かないほど、男子400m決勝は福永の独り舞台だった。2位に1秒近くの差をつけ、47秒60でフィニッシュ。それでも悔しそくに「全然納得はしていない」。

大会記録の46秒92の更新が念頭にあった。最初から飛ばしたものの「脚に重さを感じ、突っ込みきれなかった」。左太ももに疲労性の痛みを抱え、さらに直前に雨風が強まったこともレースを難しくした。

中学時代から全国舞台を経験

大会記録届かず「悔い」

してきたが、表彰台には届いていない。準決勝で敗れた昨夏、トップ選手の序盤から前に出る積極性を痛感。今季は持ち前の粘りに加え、スピードを徹底して磨き「条件が整えば、46秒台は確実に出せる」と力を込める。

もちろん、最後の夏は勝負にこだわる。「気持ちには挑戦者。どこまでいけるか楽しみ」と福永。すぐ後に「もちろん勝つつもりです」と、付け加えるのを忘れなかった。

(堤冬樹)

は木村が自己ベストの60秒75で初制覇。大会前、6年前にこの種目を制した森口顧問から「最低でも優勝しろよ」とハッパをかけられていた。好記録でその約束を果たし、余勢を駆って本大会に挑む。「(フォームの)課題を修正すればもっと伸びる。66秒を投げて、大会新で優勝したい」。強気な言葉が、心身の充実ぶりをうかがわせた。女子やり投げ3位の脇畑「記録が出ずに悔しい。(本大会では)リラックスし、大きく鋭く投げた」